

(1)美術科における昨年度の改善プランの検証

観点	検証
関心・意欲・態度	どの学年も課題に対して、意欲的に取り組み授業態度も落ち着いている。が、全体的に見通しをもって制作することが欠けているために時間内に放課後の補習活動を行った。
発想や構想の能力	発想の能力が低く、また発想の工夫のできない生徒が多い。いろいろな物を見たり、体験したことが自己の発想につながっていない。そのため発想や構成の工夫や方法についての説明を行った。
創造的な技能	集団での指導においてはICTの活用が効果的である。また個別指導をしていくことによって、平均的に技能を身につけることはできた。さらに深め、高めるところについては、個人差が出ている。
鑑賞の能力	生徒の興味・関心を引き出せる作品を軸に授業を展開した(例 参考作品や生徒の作品、または有名な作家の作品など)。また学年によってはプレゼンテーションを行うことで、級友の作品の工夫や良さを感じることができた。

(2)美術科の具体的な授業改善策

観点	具体的な授業改善策
関心・意欲・態度	<ul style="list-style-type: none"> 一人ひとりへの声掛けを大切にしてお互いの楽しさを味わわせていく。 授業規律を確立し、作業に集中させる。 計画的に作業を進めることを徹底させる。 参考作品や生徒作品、有名な作家の作品などから関心を高め意欲をもって制作に取り組ませる。ICTの活用。
発想や構想の能力	<ul style="list-style-type: none"> 生徒の発想を否定せず、認めることにより自信をもたせる。 よりよい作品になるようにイメージが湧くようなアドバイスを行う。 ICTを活用し、様々な作品を提示することで発想を広げさせる。また発想や構成の工夫や方法について具体的な表現方法の説明などを行う。
創造的な技能	<ul style="list-style-type: none"> 一人ひとりに丁寧な指導を行う。達成感と自信をもたせるとともに創る喜びを味わわせる。 限られた時間の中で見通しをもって制作させる(学習カードの活用)。道具の準備や片付けなど責任をもって行う。 区展や文化祭展示作品を通して、技能・技術の高い作品から学ぶことで、目標をもたせたり自信を深めさせる。
鑑賞の能力	<ul style="list-style-type: none"> 楽しさ、おもしろさを味わえ、わかりやすい資料の作成。 ICT機器なども活用し興味関心のもてる学習内容を工夫する。 夏期休業中に美術館に行くという課題を与え、本物の作品鑑賞の機会を設ける(2学年)

学年	具体的な授業改善策
1学年	<ul style="list-style-type: none"> 基礎的な課題(色彩構成・美しい文字・木版画・素描等)を中心として、自己の力を引き出す指導の工夫。 美術への興味関心をもたせ、好きになる教材や指導の工夫、授業の準備を行う。 授業規律を守り、予定時間内に制作が終わるように計画的に活動ができるように働きかける。(重点)
2学年	<ul style="list-style-type: none"> 技能の向上を目指す教材と指導の工夫。自信をもたせる。 自主的な取り組みを引き出していく指導や、評価を行う。 授業規律を守り、予定時間内に制作が終わるように計画的に活動ができるように働きかける。(重点) 教材にあった表現活動を意欲的に行わせる。
3学年	<ul style="list-style-type: none"> 積み上げてきた成果を発揮させる教材の設定。達成感を味わわせる。 自主的な取り組みや、意欲的な取り組みを指導、評価する。 作品制作へのこだわりや工夫を重視し、促していく。鑑賞の授業において多くの作品を味わい関心を深める。 授業規律を守り、予定時間内に制作が終わるように計画的に活動ができるように働きかける。(重点)